

第45回「てのひら文庫賞」岐阜県読書感想文コンクール

最優秀賞・岐阜県教育委員会賞作品

5年てのひら文庫部門／読んだ本・白いサリーの天使 マザーIIテレサ

最優秀賞・
岐阜県教育委員会賞

「白いサリーの天使」を読んで

大垣市立北小学校 堀 綾香

マザーIIテレサの名前は聞いたことはありましたが、何をした人かは知りませんでした。この本を読んでテレサが四つのおきなことをしたことが分かりました。

一つ目は青空教室です。テレサが「勉強しましょう。」と言った時、子ども達は「勉強」という言葉を知りませんでした。今の日本では教育を受けることは当たり前だけど、スラムではそうではありません。ノートも黒板もないので文字や数字を地面に書きました。気持ちさえあればどこでも勉強することができると思いました。

二つ目はこ児の家です。ゴミの中に捨てられた赤んぼう、子ども達をこ児の家でお世話をしました。連れて来られる子どもも全員平等に受け入れられました。「インドでは、子どもが多すぎる。それがまた貧しい人を増やす結果になる。」という意見があっても、テレサは「この世の中に生まれてきた子どもは神様と同じ。」という強い信念を持っていたからです。もしテレサが受け入れなかったら、死んでしまった子もたくさんいたと思います。

三つ目は死を待つ人の家です。道にたおれていた老人を助け、手当てをしました。医者が受け入れれないと言った人もテレサのどうしても助けたいという信念に折れ、ベットに寝かせてくれました。

四つ目は平和の村です。ハンセン病患者達がテレサ達と一緒に理想の村を作りました。やってもらうだけでなく、一人一人ができることをやりました。またテレサの計画を知り、国内や世界中から寄付があり、テレサの行動や思いに多くの人々が共

感したことが分かりました。

今の日本では子どもをあずかる施設や老人ホームなど、整った施設がたくさんあります。それはテレサのおかげで広まり整ってきたのかもしれない。

この四つのいきさつの中で特に心に残ったのは、「死を待つ人の家」のことで。テレサは年をとった老人の手当てを一生けん命にやりました。助からなかった人が半分くらいいたことがとてもおどろきました。だけど助からなかった人も、「ありがとうございました。」と言って亡くなる場所に感想しました。

人間は誰かのために生きていると思います。誰からも関心を持たれないというのはつらいと思います。自分がここにいるのに、誰も見てくれない、聞いてくれない、まるでここにいないのに扱われたら、とてもつらいです。人間はみんな生きていないことで、誰かのためになっているのではないのでしょうか。生まれたての赤ちゃんも、病気で寝たきりの人も、身よりのない人も、その人のことを大切にしてきた人だっていると思うからです。

私のひいおばあちゃんは昨年九十九才で亡くなりました。亡くなる前はさっき話したのに、それを忘れてすぐに同じことを言ったり、一緒に住んでいたおばさんは、お世話が大変だと言っていました。それでもひいおばあちゃんは、私や父が会いに行くこと「よう来た

なあ。」と言ってくれたし、家族や祖父母の家で、そこにひいおばあちゃんがいなくても、ひいおばあちゃんのことを話しまし

た。

一緒に住んでいたおばさんは、「お世話は大変だけど長生きしてほしい。」と言っていました。ひいおばあちゃんがおばさんに何かをしてあげるわけではないけれど、生きていてくれるだけでうれしいことなんだと思いました。ひいおばあちゃんは亡くなったその時は一人でしたがとてもおだやかな顔でした。そう式に来た人は、みんな感謝していました。

私のひいおばあちゃんはたくさんのおせきがいたので、テレサが手をさしのべた人とは少しちがいますが、同じ人間であることに変わりません。死ぬ時に、自分は大事に思われていると感じられることが当たり前の世界であってほしいです。

「貧しい人は美しい。」とはマザーIIテレサの言葉です。この本を読んで「貧しい人」とは食べ物、着る物がなくて生活している人のことで、「美しい」とは顔、服装などの見た目ではなく「心」であると分かります。食べ物足りなくて、おなかが空いてたまたない時に少し食べ物をもらったら、私なら自分で食べてしまいます。でもテレサが出会った人は、わずかな米もうらの人に半分あげました。自分だけでなく周りの人の事を当たり前に思いやり行動できるのです。自分だけが幸せな気持ちになるより、周りの人、世界中の人々が幸せになれた方がうれしいです。

そのために食べ物大切にしたり、ば金で貧しい人の力になりたいし、テレサのように命を大切にしたいです。